

通路を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	1	8 ～ 10	被災者が、ホームルームの打ち合わせを行うために、事業場敷地内に ある体育教員室から会議室へ移動していたところ、前日の雪の影響に より凍結した通路で足を滑らせて転倒し、後頭部を地面に打ち付け、 意識はあったが病院で検査を行ったところ、硬膜下血腫と診断され、 入院先で治療を受けるも数日後に容体が急変し死亡したものの。	120109	2	100 ～ 299
2022	1	12 ～ 14	被災者はトラック助手席に乗ってごみ収集の補助業務に従事する者。 被災者は敷地内2階建て倉庫の2階へ、収集時に使用予定のごみ袋を 取りに行き戻る際、2階扉を出て外階段への通路（長さ約5m、幅約 1.1m）の途中で、端部から3.27m下の地面へ墜落し頭を打っ た。同月中に死亡。端部に張られていたプラスチック製チェーンは墜 落時に切断。	150102	1	10～ 29
2022	2	8 ～ 10	電話回線の回収工事において、工事業者が対象となる電柱を探すため に車道脇の擁壁上（幅143cm程度）を移動していたところ、交通 誘導のために現場にいた警備業者に所属する被災者が工事業者を追従 し、高さ7.2メートル、勾配63度の擁壁上から車道に転落した。	170201	1	10～ 29
2022	2	6 ～ 8	被災者は、スタンド内の凍結した地面で足が滑り、後方に転倒して後 頭部を地面に打ち付けた。負傷時は一時的に意識を失ったが、その後 意識を戻し、外傷がなかったため病院を受診せず勤務を続けた。約3 週間後、自宅において母親が被災者を起こそうとしても起きなかった ため、救急搬送。同日、硬膜下血腫により死亡が確認された。なお、 被災者の所属は災害発生場所とは別事業場であり、週1回災害発生事 業場で勤務していたもの。	080204	2	10～ 29

2022	4	10 ～ 12	製造工程で使用する水等の浄化を行う工場排水最終槽の内、「排水沈殿槽」内において、背中を上にした状態で水面に浮いている被災者が発見されたもの。被災者は当該槽の点検を担当しており、排水沈殿槽の点検等を当該槽上に架設された鋼製の通路上から行っていた際に、槽内に転落したものと推定される。	010805	10	50～ 99
2022	9	6 ～ 8	マイナス25度の冷凍庫内において、通路を歩いていた被災者は床面に両足を滑らせて後方に倒れ頭を強打。救急車で搬送されたものの、急性硬膜下血腫および外傷性くも膜下出血により19日後に亡くなった。保護帽は着用していなかった。	080109	2	1～9
2022	10	18 ～ 20	被災者は業務のため事務所入り口を出て、駐車場に向かおうとしたところ、敷地北側の境目にあった岩（径約130センチメートル）に躓き、約1メートル下がった地面に頭部を強打した。災害発生時刻は夕刻ごろであり、周囲には照明がなく、足元は見えにくい状況であった。	150101	2	1～9
2022	11	10 ～ 12	被災者は設備保守担当で、乾燥機が自動運転中にブレーカー落ちで停止した対応に乾燥機へ向かった。普段の復旧所要時間経過後も未復旧なので作業が見に行くと、乾燥機前の通路に意識不明でうつ伏せに倒れていた（胸はトラバーサー誤作動防止用の電磁波遮蔽板（高さ38.5cmの金属製）に乗っていた）。搬送され入院中に肋骨多発骨折等外傷に伴う心肺停止により死亡。	011703	2	100 ～ 299
2022	11	14 ～ 16	被災者は、手すりが設置されたドッグゲート上の通路を移動していたところ、約8.5メートルの高さからドッグ側のコンクリート面へと墜落した。	011501	1	1～9
2021	1	8 ～ 10	被災者は、バスの運転手。被災日は朝の運行を終え、バスを駐車している車庫から、200m程度離れた事務所に帰社する途中、駐車場が凍結していたため転倒し頭蓋部を強打した。病院に入院し療養していたが、死亡。	40201	2	1～9

2021	1	12 ～ 14	事業主と被災労働者の2人で薪木をトラック荷台に人力で積載していたところ、被災者が体調不良を起こしたため、その場で座って休ませつつ、事業主は荷台の薪木を搬出して仕事を切り上げようと近所にトラック運搬して10分程度で戻ってきた際、被災者が倒れて嘔吐し意識朦朧状態であるところを発見した。なお、被災者は頭蓋骨（後頭部）骨折等を負っていた。	60209	2	1～9
2021	2	10 ～ 12	被災者の同僚労働者が、擁壁工事に使用する部材を探索するため、地山を床掘した箇所に行くと、被災者が倒れているのを発見したもの。被災者が倒れた様子を見た者はいなかった。なお被災者は、地山を床掘した作業面において使用部材を探索していたものと推定される。	30107	2	10～ 29
2021	2	14 ～ 16	自社敷地内の樹木剪定作業を終えた後、剪定された樹木の残材の片付けを行っていたところ、床レベルに折りたたんで仮置していた脚立につまづいて転倒し、頭部を強打したもの。その後、病院にて診察を受け外傷部位の処置を行い、一度会社に戻ってから帰宅したが、帰宅途中の路上で倒れて死亡したもの。	40201	2	100 ～ 299
2021	4	8 ～ 10	採石プラントにおいて、シックナータンク（濁水の沈殿分離を行う設備）の攪拌装置の駆動部分（チェーン）にグリスを注油する作業を行ったのち、当該タンクから操作盤へ続く通路へ戻る際に、通路の端部より、高さ約5.6メートル下の地面に墜落したもの。通路の端部には手すり等の墜落防止措置が講じられておらず、被災者は墜落制止用器具を着用していなかった。	20201	1	10～ 29
2021	4	16 ～ 18	被災者は、食器を片付けるため、手で皿を持って運搬していた際、床面で転倒し、転倒の衝撃で右大腿骨頸部を骨折した。被災後、被災者は大腿骨骨頭置換の手術を受けたものの、当該手術中に、肺血栓塞栓症を発症して死亡した。	140201	2	10～ 29
2021	5	14 ～ 16	型枠組立て作業中、作業通路から約1.2m下の地面に墜落した際に、パイプサポートに胸を強打した。作業通路は巾9cmの角材を2列に並べたもので、幅は18cmであった。	30201	1	10～ 29

2021	6	10 ～ 12	貨物運搬用の索道の主索交換工事に従事していた被災者が、主索の張り具合の確認のため索道の支柱がある山林に立ち入り、確認作業終了後、索道の荷受け場まで戻ろうとしていた際に、高さ約20メートル、斜度50から70度の斜面を墜落し死亡したものの。	30302	1	1～9
2021	7	10 ～ 12	プラスチック成型機の金型交換のため、金型（1枚の重量100～150kg、4枚）を積載したラック台車を、被災者が前方でラック台車を引き、同僚が後方でラック台車を押し移動させていたところ、ラック台車の自在キャスターが溝のグレーチング間の隙間にはまったことでラック台車が倒れかけ、被災者がラック台車が倒れるのを防ごうとしたところ、ラック台車が倒れ、下敷きとなり死亡したものの。	10805	7	100 ～ 299
2021	7	10 ～ 12	発電所設備工事の一部を被災者所属事業場が請け負うことができるか確認するため、被災者は元請担当者と共に2名で徒歩により山中にある現場を訪れていた。現場の確認が完了し、元請担当者とともに下山していたところ、被災者は通行していた経路（幅0.7メートル）で足を滑らせて、崖下に約20メートル転落した。	30209	1	10～ 29
2021	8	14 ～ 16	共同墓地において、墓石の清掃等の作業を行っていた被災者が、徒歩で移動中に転倒し、墓所内の石造りの構造物で顔面を打ち、鼻骨骨折等を負った。災害発生の数時間後、被災者は、携帯電話を使用して、同業他社に勤務する知人に連絡し、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	80209	2	1～9
2021	8	6 ～ 8	出張先へ向かう途中、電車乗り換えのため駅ホーム上を歩いていたところ転倒し、後頭部を強く打ち、緊急搬送され、その後死亡した。	170209	2	30～ 49
2021	9	2 ～ 4	被災者は、鉄道駅ホームにて、同僚警備員と二手に分かれて巡回警備を行っていた。同僚警備員は合流地点に被災者が現れないため、2番ホームを確認すると被災者が軌道内に転落していた。被災者は病院に搬送されたが、後日死亡した。	170201	1	100 ～ 299
			トラックの荷台から事業場2階の倉庫へ、階段を使用して荷物を搬入			

2021	10	12	している作業中、1階で大きな音がしたため、2階にいた同僚が音がした1階に向かったところ、1階の階段付近に被災者がうつ伏せになって倒れていた。ドクターヘリにより医療機関に搬送されたが、死亡したもの。災害発生状況を目撃した者はいない。	170209	2	10～ 29
2021	12	4	4トントラックを運転して、荷の運送を行った被災者が、同トラックを車庫に戻す途中でガソリンスタンドに立ち寄り、同トラックの給油を行った後、同ガソリンスタンド内の洗車場に停車した同トラック付近で倒れているところを発見され、医療機関に搬送されたが、同日、急性硬膜下出血により死亡した。	40301	2	10～ 29
2021	12	8	給食調理業務に従事する労働者が、休憩時間中に敷地内の屋外通路を歩行中、足を滑らせ転倒し頭部を強打したもの。被災者は、脳挫傷により死亡した。	10109	2	10～ 29
2020	1	20	被災者は、設備の保守点検のためのパトロールを1人で行っていたが、ベルトコンベアの近くで倒れているところを、他の作業員に発見された。	11601	1	100 ～ 299
2020	3	10	被災者と同僚が客の方へ向かうため事業場内の通路を歩行中、被災者の前を歩いていた同僚が後方から名前を呼ばれたので振り返った際、すぐ斜め後ろを前進していた被災者が同僚の左上腕部に胸部を打ち付けられ、通路に強く尻もちをついた。搬送された病院で大腿骨骨折と診断され、6日後に手術を受ける予定で入院したが、2日後に骨折箇所の内出血が悪化し、出血性ショックにより死亡した。	80109	3	1～9
2020	4	14	被災者が休憩室内の休憩スペースからトイレ間の通路で倒れ後頭部を強打した。翌日休憩室内の当該場所で倒れている被災者を見出し、病院へ救急搬送されるも、後日死亡した。	140101	2	100 ～ 299
2020	5	14	チラシを積み込んだかご車に、荷崩れ防止用のバンドを2本掛け、バンドに足を掛けてバンドを締める作業を2名で行っていたところ、かご車が後方に倒れ、被災者はかご車とともに転倒し、床に頭を強打した。被災者は病院に収容されたが、2日後に脳内出血のため死亡し	10709	2	300 ～ 499

			た。			
2020	5	22 ～ 24	セルフ式ガソリンスタンドで勤務する労働者が、同敷地の南西側に隣接する深さ1.1メートル、幅61センチメートルの側溝に墜落し、死亡したもの。	80204	1	1～9
2020	7	14 ～ 16	工場内で体調が悪くなり、倒れた際に、頭部を工場内設備に激突し、急性硬膜下血腫を併発したもの。	11203	2	10～ 29
2020	9	8 ～ 10	水産食料品を製造する工場内において、高温高圧殺菌用圧力容器の配管（塩ビ管、内径40mm）のうち、高さ2.25mの位置にある逆止弁の取り替え作業を行っていたところ、心肺停止状態で床面に倒れているところを発見されたもの。	30302	2	1～9
2020	11	4 ～ 6	新聞配達中に歩道上で倒れていたところを通行人に発見され、救急搬送された。「脳挫傷」、「急性硬膜外血腫」と診断され治療を受けていたが、翌日死亡したもの。	80205	2	10～ 29
2020	11	22 ～ 24	補修工事を終えた道路の警備をしていた被災者が、勤務時間中に転倒し、路面に後頭部を打ち付けて死亡したもの。	170201	2	10～ 29
2019	1	6 ～ 8	午前頃、顧客から当該給油所が営業していない旨の連絡があり、担当者が当該事業場に駆け付けたところ、被災者は頭から血を流した状態で監視室の椅子に座り、意識を無くしていた。救急車で搬送されたが死亡が確認されたもの。現場の状況等から、被災者はガソリンスタンドの駐車場の前で転倒し、頭を打ったものと推定される。	80204	2	1～9
2019	2	18 ～ 20	大学構内で被災者が血を流して倒れているところを通行人が発見した。墜落箇所の真上には、校舎外階段の8階踊り場に、工事に屋上に上がるための架設通路が設置されていた。なお、当該通路に手すりや中さんは設けられていた。	30203	1	10～ 29
		14	客先の施設にある配電盤の点検作業を請け負う労働者が、設備3階に			

2019	5	～ 16	ある配電盤の設置場所に向かっていたところ、床材（鉄板）を踏み抜き、約8m墜落したもの。当該箇所は錆びて腐食していたため、ロープで立ち入り禁止措置が講じられていた。	30301	1	1～9
2019	6	12 ～ 14	インク製造棟内作業場のコンクリート床で、頭部から出血し、あおむけで卒倒している状態の被災者が発見された。外傷性くも膜下出血、脳挫傷、急性硬膜下血腫と診断され、事故3日後に死亡が確認されたもの。	10808	2	10～ 29
2019	10	16 ～ 18	営業業務から帰社し、当日夜間に現場で使用する機械の運搬について業者と打ち合わせた後、ふらふらし始めバランスを崩し転倒した。転倒時コンクリート面に後頭部を打ち付け、硬膜外血腫により死亡した。	30106	2	1～9
2019	10	12 ～ 14	下水道工事現場に近接する道路上で転倒し、後頭部を強打した。	30110	2	10～ 29
2018	1	4 ～ 5	新聞配達中の被災者が、生活道路上（斜度：約10度）を徒歩で移動中に転倒して頭部を強打したもので、入院加療を行ったが、急性硬膜外血腫のため、死亡したものである。	80205	2	30～ 49
2018	1	20 ～ 21	工場内の計器の巡視作業を行っていた被災者が、通路上の開口部より15m下に墜落した。災害発生当日、工場内では機械の据付作業を行っており、設備担当者が機械の搬出入のため通路の床（グレーチング）を取り外して作業を行い、当該グレーチングを復旧しなかったため、グレーチング撤去後の箇所は開口部（99cm×104cm）となっていた。なお、開口部の周囲に立入禁止等の墜落防止措置は講じられていなかった	150102	1	50～ 99
2018	3	10 ～ 11	マンション新築工事において、三次下請事業場所所属の労働者が、14階において、部材を運ぶため、高さ19センチの台車に部材を乗せ、当該台車を押しつつ低姿勢で移動していたところ、同階の躯体端より地上まで墜落したもの。躯体端の手すりの隙間からすり抜け、墜落し	30201	1	1～9

			たものと推測される。			
2018	6	14 ～ 15	木造2階建てアパートの解体工事を行っていた。事業場代表及び作業員3人で作業を行っており、作業員は建物内部1階の内バラシ作業を、代表は解体用機械を使用して、アパート2階の屋外通路部分を解体していた。午後2時頃、半分残っていた屋外通路が突然落下し、被災者は落下したコンクリート床（推定重量425kg）に右足を挟まれ、右足関節解放骨折、右大腿骨骨折、骨盤骨折を負い、後日搬送先の病院で死亡。	30202	4	1～9
2018	7	16 ～ 17	請け負った冷蔵室の扉取付け工事が終了後、脚立の真下で倒れている被災者を同僚が発見。後日脳挫傷により搬送先の病院で死亡した。被災者は、脚立の下で屈んで施工箇所の最終チェックをした後、立ち上がろうとしたとき、後頭部を脚立の脚の角度を保つための金具に激突した弾みで、コンクリート製の床面に倒れ、顔面を強打した。保護帽未着用。	30302	2	1～9
2018	9	16 ～ 17	公園内での剪定及び伐採作業の片付けを行っていた際、歩行中に前方向に転倒した。（4日後に腹部の痛みを訴え、救急搬送された病院では脾臓損傷と診断され、入院の10日後に死亡した。）	60101	2	1～9
2018	9	14 ～ 15	発電所の下流約500mの連合用水路内の左岸側壁部の修繕工事の準備のため、一輪車に約20kgの発電機を積載し用水路脇の巡視路と呼ばれる路を被災者と外国人労働者2名の3名で交替しながら運搬。被災者に交替し数メートル運搬した後、誤って巡視路から用水路（高さ3m、深さ1m）に発電機、一輪車と共に墜落したもの。墜落推定箇所の巡視路の幅は2.8メートルで柵が無い状態であった。	30199	1	1～9
2018	10	4 ～ 5	被災者は、地上約12メートルの位置に運転席があるクレーンの運転手であるが、詰所で休憩後、作業再開するため、運転席に戻る際、運転席に通じる歩道から約12メートル下方のアスファルト路面に墜落した。	11001	1	100 ～ 299
			マンション大規模修繕工事において、足場の組み立て作業中、地上か			

2018	10	14 ～ 15	らウインチで吊り上げられた建枠（600枠）4枚（約50kg）を受け取り、架設通路上を移動中に17層目（高さ約30m）から建枠と共に地上に墜落したものの。	30309	1	1～9
2018	10	8 ～ 9	廃プラスチックの収集運搬作業中、集積所へ向かう途中、坂道でつまづき近くの電柱に体を支えようとしたが支えきれず前向きに転倒し顔を強打したものの。後日、死亡が確認されたものの。	40301	2	30～ 49
2017	1	6 ～ 7	車で朝刊配達中、足がつり足の動きが悪くなってきたため、車外に出て配達の手伝いを求めてアスファルト製の道路上で待っていたところ、転倒して頭部を打ち2日後に死亡した。	80205	2	10～ 29
2017	2	16 ～ 17	下水道工事現場において、町道を走行するドラグ・ショベルの土場までの交通誘導を終え、町道を歩いて下水道現場に置いてある車に戻る途中に、何らかの理由で倒れた。倒れていた被災者は誘導旗の棒の先端が右目を貫通している状態で発見された。歩行中、町道の側溝の取手穴に躓いて転倒したものと推定される。	170201	2	30～ 49
2017	2	14 ～ 15	午後2時30分頃、被災者が5階ロッカー室のソファで意識のない状態で発見され、救急車で病院に搬送されるも、9日後に死亡した。死因は後頭骨骨折、脳挫傷であり、被災者が就労施設内のどこかで転倒したものと推定される。	140101	2	100 ～ 299
2017	7	14 ～ 15	コンクリート殻の搬出を終えて現場に戻った被災者（ダンプ運転者）が、現場内を歩いていたところ、ヤード内に置いてあった鉄網付近で転倒し、頭を強打して首を損傷した。	30106	2	10～ 29
2017	12	20 ～ 21	調理師である被災者は、事業者の運営する飲食店での業務を終え、同事業者の所属事業場へ徒歩で移動中、路上で倒れているところを通行人に発見され、救急搬送されたが死亡した。被災者が倒れていた路上は凍結して滑り易くなっていた。	140101	2	100 ～ 299
2017	12	8 ～	民家の解体工事において、廃材をキャリー（ハンドガイド式の運搬車）に乗せて置き場へ運搬していた被災者が、頭部を負傷し道路に倒	30202	2	1～9

		9	れているところを発見された。			
2016	1	5 ～ 6	新聞配達のため、町道を歩いていた際、転倒し、頭部を負傷し死亡した。	80205	2	30～ 49
2016	1	13 ～ 14	水産加工場内の設備工事。昼休憩が終わり、作業場所である水産加工場3階へ向かうために階段を上っていたところ、1階と2階の間にある踊り場の端（幅1.75m、地上高さ2.3m）から墜落した。	30309	1	1～9
2016	1	4 ～ 5	被災者は、新聞配達の業務終了後、自宅に帰り、朝食を取って寝ていたところ、突然頭の痛みを訴え、「配達中に転んだ」と伝えた後、呂律が回らなくなり、病院搬送され手術を受けたが、そのまま亡くなった。	80205	2	1～9
2016	5	13 ～ 14	反物の仕上げ作業中、仕上げ機械前の通路において、被災者が仰向けに倒れていたところを同僚が発見し、即日救急車で搬送されて入院治療を受けていたが、当該災害発生後から約3ヶ月経過した8月17日に入院先の病院で死亡した。	10204	2	10～ 29
2016	7	9 ～ 10	出勤時、職員通用口へ向かう通路で滑って転倒し後頭部等を打った。打撲・擦り傷程度と考えていたが、5日後勤務中に気分が悪くなり倒れているところを発見され救急搬送されたが病院で死亡した。	140101	2	100 ～ 299
2016	8	14 ～ 15	太陽光発電システム設置工事において、パネルからの電線をケーブルホースに通す作業中、被災者がロープを引いたため、ケーブルの束の先端に繫いだロープが外れ、これにより被災者は倒れ、床面で頭部を強打し、脳挫傷による死亡が確認された。	30309	2	10～ 29
2016	9	20 ～ 21	被災者は、毎月1回、社で開催される支店長会議に出席した。会議終了後、全員参加の懇親会に出席した後、自宅に帰る途中、駅のホームで転倒、床に頭部を打ち、病院に救急搬送された。搬送先の病院で入院、治療をうけていたが、約1週間後に死亡した。	170209	2	1～9
		10	立体駐車場への車両誘導等の業務を行っていた被災者が、駐車場敷地			10～

2016	11	～	内で転倒した際に脊髄損傷を発症し、当該疾病の療養期間中に、誤嚥性肺炎によって死亡した。	90209	2	29
2016	12	～	4 徒歩で新聞配達中の被災者が、道路（道路幅：約90cm）を移動していたところ、道路下（高さ約4.8m）の民家に転落して死亡した。	80205	1	1～9
2015	10	～	1 軽ワゴン車に配達用の新聞を積み込む作業をしていたところ、転倒し、後頭部を床に打ち付けた。意識はあり、引き続き6時間ほど業務を行い、所定終了時刻にて退社。翌18日の朝になって吐くなどしたため、病院を受診したところ、そのまま入院となり、19日に手術が行われたが、21日に死亡した。	80205	2	50～99
2015	11	～	5 被災者は新聞を自宅周辺の地区13戸に徒歩で配達する業務に従事。午前5時前に公民館に直行し、事業主により軒先ベンチに置かれた新聞を受け取り配達する。いつも午前6時頃直帰するが当日は自宅に戻らず、午前7時前に様子を見に行った被災者の妻が、公民館敷地内で新聞を小脇に抱えたまま頭から血を流し倒れている被災者を発見した。意識はなく病院で死亡確認。災害発生の目撃者はいない。	80205	1	10～29
2015	4	～	15 キャベツの芯取り作業を行っていた被災者が、転倒した際に床に頭部をぶつけた。帰宅後、病院を受診し頭蓋骨骨折で即時入院となった。翌26日に脳内出血により意識不明となる。30日、0時40分頃死亡したもの。業務上外について現在調査中である。	10109	2	100～299
2015	3	～	14 被災者が自動車で現場内に仮設された作業用道路を移動中、崖下の雑木林に転落し、車と地面との間に挟まれたもの。道路から転落した箇所までは約10メートルであった。	30302	1	1～9
2015	10	～	11 被災者は、倒産したもやし工場を購入予定の顧客とともに工場内の水回りの点検作業を行っていた。水回りの確認を行うため通路上（高さ約3.0m床材：エキスパンドメタル）を歩行中、床材（約0.9m×約0.6m）ごと約3.0m墜落し被災したもの。	30302	1	10～29
			構内のドックサイドにて、ラジオ体操及び作業ミーティングを行った			

2014	2	8 ～ 9	後、ドック海側に設置された艀装栈橋に接岸した艀装船に移動するため、ドックゲート上の通路を走行中、何らかの原因で転倒し、通路の手すりの間から、ドック底（4.4m）に墜落した。	11501	1	1～9
2014	7	11 ～ 12	ビルの解体工事現場にて、外部足場のタラップを使用し、地上に降りた際、躯体と外部足場のすき間に墜落した。	30209	1	1～9
2014	7	21 ～ 22	車両規制をしていたカラーコーン等の撤去作業中、一般車両の進入を防ぐため、発煙筒を設置しようとして中央分離帯を歩き、移動していたところ、手摺りもなく開口部になっている箇所があり、その地点から6.89メートル下まで転落した。	170201	1	30～ 49
2014	11	8 ～ 9	屋根の防水工事中、同僚1名と被災者が足場の階段を使用し、地上から2階に登った際、先に登った同僚が足場2段目で下を見たところ、地上で被災者が倒れているのを発見した。被災者は頭部外傷により死亡した。尚、被災者は保護帽を着用していなかった。	30201	2	1～9
2014	11	9 ～ 10	警備作業中、対象店舗内の通路を歩行していたところ、転倒し、頭部を打撲し、死亡した。	170201	2	100 ～ 299
2014	12	11 ～ 12	高さ約5メートルの箇所にて、コンベアの清掃作業を行っていたところ、墜落した。	20201	1	1～9
2013	1	4 ～ 5	雪と雨が混じったシャーベット状態の道路上を歩いて朝刊を配達していた際、滑って転倒し、後頭部を打った。	80205	2	30～ 49
2013	9	6 ～ 7	被災者は、一人で新聞配達を行っていた。新聞配達を終え、自宅に帰る時間になっても被災者が戻らないため、家族や近所の人が同地内を捜索したところ、町道から約2m下の用水路の中で意識を失い倒れている被災者を発見した。被災者は発見後、救急搬送されたが、溺死に	80205	1	10～ 29

			より死亡が確認された。			
2013	1	14	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に向かって歩いている途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し、頭部を負傷した。	30106	2	10～ 29
2013	7	13	被災者は、2階製造フロアにおいて、練り物製品の製造業務に携わっており、2階製造フロアで作業のためフライヤー横付近を歩いていたところ、足を滑らせ転倒し、頭部を床に強打した。	10102	2	10～ 29
2013	10	14	ごみ収集車のブレーキランプを交換し、同僚作業者と車外で点灯状況を確認していたところ、ごみ収集車が路面の傾斜で後方に下がり、1.5m下の地面に転落した。その際、転落する車を寸前まで抑えていた被災者を同僚作業者が車から引き離れたが、被災者は足を踏み外して1.5m下の地面に墜落した。なお、車両には輪止めがなく、また、通常は敷地内の整備工場で当該作業を行うが、災害発生時は駐車場で行われていた。	40301	1	50～ 99
2013	1	17	被災者は、テニス練習場において、テニス指導員として中高生を対象にテニススクールのレッスンを行っていたところ、生徒の往復疾走に併走してバックステップをしていた際、後方から転倒し、頭部を激しく強打した。	140309	2	10～ 29
2013	1	9	橋型クレーンの操作中、突然被災者が前のめりに倒れ、その際床にあった棒状の鉄板端材が顔面から突き刺さった。	11501	2	10～ 29
2012	11	1	化学工場において、配管からの漏えい対応作業における転落事故。被災者らは、配管漏えい部分の調査確認と補修作業を行おうとしたが、漏えい箇所が作業用通路から離れていたため、応急措置として漏えい部分に吸引ホースを当てて仮固定することとした。調査確認に従事した2名のうち、1名がホース固定作業等を行っていたところ、近傍	10899	1	50～ 99

			で待機していたもう1名の姿が見えなくなり、作業箇所の下方約10mの地面に転落しているのが発見された。			
2012	11	11 ～ 12	被災者は山林にて、立木を獣害から防護するための薬剤塗布の作業を終え、林道に停車している車まで帰る下山途中に、急峻な斜面から約40m下にある沢の河原まで滑落して意識不明となり、救急搬送された病院で死亡した。	60209	1	10～ 29
2012	1	7 ～ 8	被災者は工場増設工事にて工事関係車両の交通誘導等の警備業務に従事していた。被災当日、業務開始直後、工事で区画された歩行者通路を歩いていたところ、凍結した路面で足元が滑り転倒、頭部を路面に強打し、救急搬送先の病院で死亡した。なお、被災当日の朝の最低気温は氷点下8度であった。	170201	2	30～ 49
2012	5	17 ～ 18	被災者は業務を終了し、帰宅のため2F事務所の出入口から外部階段に通じる踊り場に出ようとしたところ、雨で濡れていたために転倒し、頸髄損傷により意識不明となり、救急搬送先の病院で死亡した。	30201	2	1～9
2012	6	10 ～ 11	テナントビルにおいて、被災者はエレベーターホールの床をモップで清掃していたところ、足を滑らせ前方に転倒し、頭部および胸部、大腿部を床面に打ちつけた。なお、被災者は最寄りの病院へ行き、頭部の検査を受け打撲と診断されたが、大腿部に骨折の疑いがあるため精密検査を受けるよう指示を受け、翌日別の病院で検査を受けたところ、心臓に異状が認められ入院していたが、1週間後に様態が急変し死亡した。	150101	2	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	屋上におけるケーブルラックの敷設工事中、休憩をするため、被災者は屋上から屋内の2階へ続くケーブルの引き込み口から入り、約80cm下の梁を渡り、床に降りるため、更に梁から約80cm下の枠組足場（4スパン2段）を通ったところ、足場の床の端から約4m下のコンクリート床に墜落し、重傷頭部外傷で死亡した。	30201	1	10～ 29
2012	12	12 ～	被災者は浴槽の窓を清掃中、誤って崖から（約40m）下に転落し、救	140101	1	50～

		13	急搬送先の病院で死亡した。			99
2011	8	9 ～ 10	被災者はグループホーム入居者からの呼び出しコールが鳴ったため、スタッフルームから走って居宅へ向かっていたところ、モップで水拭きした廊下で足を滑らせ転倒した際、後頭部を強打したものの。その後、被災者は8月30日7時1分に死亡した。	130201	2	30～ 49
2011	6	22 ～ 23	被災者が建造ドッグにて建造中のブロックの取り付け作業を終え、協力会社の共有事務所内のロッカー室に帰る途中、工事中の水路に転落したものの。	11501	10	50～ 99
2011	3	11 ～ 12	工場内で、製品出庫作業中、何らかの原因で転倒し、頭部を強打した。（右側頭部の打撲による硬膜下血腫及び脳挫傷、3月27日（日）午前10：30入院先の病院で死亡）6月17日労災支給決定。確定	10602	2	100 ～ 299
2011	10	11 ～ 12	被災者はビル改修工事のうち、給水管の配管更新工事において、ビルの屋上に設置されたペントハウスの屋根上で高架水槽につながる管の設置作業を行っていた。午前12時ごろ昼休みを取るため、作業をいったん中断したあと、階下に戻る前に被災者は何らかの理由でペントハウスの端に行き、その際笠木部分から墜落したと推定される。	30203	1	10～ 29
2011	1	8 ～ 7	被災者は除雪用品売り場のスコップが少なくなってきたために、スコップの補充をしに農業資材コーナーに行った。その後、客から人が倒れているとの連絡があり、売り場に確認に行くと9尺の脚立の傍で被災者が倒れていた。病院に搬送される時は意識があり、病院に運ばれてからもしばらくは人とも会話できていたが、11時頃になって急変し緊急手術を受けた。それから意識は戻らず、2月5日に死亡したものの。	80209	2	100 ～ 299
2011	2	13 ～	被災者は牧場第1号厩舎へ牛に飼葉を与えに行ったが、通常の時間になっても戻ってこなかったことから、同僚労働者が第1号厩舎へ確認に行ったところ、意識混濁状態で鼻から血を流して歩いていたため、	70101	2	1～9

		14	救急車により黒部市民病院に搬送、後頭部頭蓋骨骨折・脳挫傷により平成23年2月27日午前11時10分死亡するに至ったものである。			
2011	10	8	トラックの荷台から落下した可能性のある積み荷（リサイクル缶等）を拾うため、走行中のトラックの荷台から降りようとしたところ、頭	11709	3	30～49
2011	1	9	屋内で新車のワックスコーティング作業を行っていた被災者がコンクリート床に仰向けに転倒して後頭部を強打。脳挫傷、頭蓋骨骨折により搬送先の病院で翌日死亡したもの。	170209	2	10～29
2011	8	16	被災者は、当日の配達等が終わって時間が余ったため、社長に申し出て会社所有の倉庫敷地内の草刈りを行っていたが、その後、何らかの理由で作業場所から約4m下の県道に墜落したもの。（現認者がいないため、被災者が倒れていた場所からの推測。草刈り機は墜落したと想定される場所から離れた所に置かれており、被災者の倒れていたそばには殺虫剤の缶が落ちていた。）	80204	1	1～9
2011	10	15	被災者は、午前中は工場内で鉄材の錆び取り等の軽作業を行い、午後からは同工場内で製作されたバイオディーゼル燃料タンク5台（内容量1.9KL）を塗装するため、屋外の塗装場に搬送する作業に従事していた。2台目の搬送作業中に午後3時の休憩時間（15分）となった。午後3時8分頃、搬送作業中のタンクの傍らで倒れているのを通りかかった同僚が発見したもの。災害時の目撃者はいない。	11209	2	10～29
2010	12	11	被災者は、上司2名と関係数社に年末の挨拶にまわっている途中、道路沿いの歩道を歩いていたところ転倒した。転倒の際に顔面と頭部を強打し、病院へ搬送されたが、頭部の負傷により約1週間後に死亡した。	11209	2	100～299
2010	12	16	鉄骨造2階建の事務所新築工事現場において、下請の労働者が、型枠材の解体作業中、1階の建物の中から型枠材を持って建物の外へ搬出しようとした際、出口でつまずいて転倒し、出口付近の基礎から上方に出ている鉄筋（長さ約40cm）が、被災者の顔面に刺さり死亡し	30201	2	1～9

			たもの。			
2010	11	16 ～ 17	天井クレーン（つり上げ荷重20.5t）の横行用ブレーキ（約0.1t）を交換するため、ランウェイ点検用歩道上に設けられたテルハ（つり上げ荷重0.18t）を使用し、地上から歩道に設けられた開口部（450×1270mm）を通して歩道上に横行用ブレーキをつり上げたところ、横行用ブレーキを横切ってクレーンに乗り込もうとした被災者が開口部から15.5m墜落したものの。	11009	1	100 ～ 299
2010	11	9 ～ 10	エコシステムの増築工事において、サッシの取り付け作業を行っていた。被災者は作業場所に向かう途中、雨水のたまった通路を避けようとし、通路わきの雨水ピット端のコンクリート天端を歩いていたところ、深さ約3.8mの雨水ピットに墜落し、溺れて死亡したものと推測される。	30201	10	1～9
2010	9	10 ～ 11	青果店において、商品発注のための作業を店外で行っていた被災者が店内に入ろうとした際、入口に敷いてあったマットの弛みに足を取られ、転倒し、右膝を骨折したため、医療機関で治療を受けた後、自宅で療養をしていたところ、7日後に血管が詰まったため倒れ、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	80209	2	1～9
2010	8	7 ～ 8	意識不明の状態では保安室の仮眠室において被災者が倒れているのが発見され、病院に救急搬送され入院加療していたが、11日後に死亡したものの。転倒して側頭部を打撲したとみられる。	150101	2	10～ 29
2010	8	20 ～ 21	被災者は観光客送迎用バスの運転業務を行っていたが、観光客を宿に降ろして、バスを駐車位置に移動させた後、バスから100m離れた事務所に戻る途中、バスから22mの所で道路脇の川に転落し、死亡した。翌日、川底に倒れているのが発見された。	140101	1	1～9
2010	7	7 ～ 8	被災者は、ガス充てん作業所内でハトを駆除するため、高さ約5mの所にある足場板で組まれた作業床上で、天井部付近に有刺鉄線を取り付ける作業を行っていたところ、何らかの原因で足場板から墜落して、頭部と胸を負傷した。直ちに病院へ搬送され、緊急手術を受け危	11602	1	1～9

			篤状態でICUで経過を診ていたが、4日後に死亡した。			
2010	6	11 ～ 12	被災者は、再委託事業者の労働者2名とともに、朝から高架橋の橋桁の点検作業を行っていた。昼になり、昼食のため現場を引き上げようと橋脚に設置された検査路に立ち入ったところ、同検査路の鋼製金網状床が錆びのため腐食しており、床を踏み抜き、およそ19m下のコンクリート製の橋脚台に墜落したものである。	170209	1	100 ～ 299
2010	2	8 ～ 9	現場事務所内にて朝の打ち合わせ終了後、約150m先にある作業現場へ徒歩にて敷き鉄板の上を歩行中、現場事務所から約100m進んだ下り勾配の凍結箇所転倒し、頭部を強打したとみられる。被災日は他の労働者と同様に夕方まで作業を行い、帰宅後に痛みがあったため、受診して術を受けたが、10日後に死亡した。	30108	2	1～9
2010	1	9 ～ 10	在宅型の福祉センター内において、デイサービス利用者を駐車スペースの送迎バスからセンター2階へ誘導する介護業務を行った後、事務室に戻る途中の廊下にて何らかの理由により転倒し被災したもの。災害が発生してから約10ヶ月後に死亡した。	130201	2	30～ 49
2010	1	11 ～ 12	被災者は、煮沸した豆の充填機のオペレーター補助を行っていたが、昼の休憩前に、機械周りにたまった水を取り除くため、掃除道具（水切り）を道具置き場に取りに行き、戻ってくる途中の通路（水があり滑りやすかった）に於いて転倒し、頭部を強打した。即座に救急車が呼ばれて病院に搬送されたが、翌日死亡した。	10109	2	10～ 29
2010	1	12 ～ 13	事業場内で倒れている被災者を同僚が発見し、救急車で病院へ搬送したが、8日後に頭部の負傷により死亡した。災害発生直前、被災者は生コンクリート出荷準備のため、ミキサー車の点検作業を行っていた。被災者が倒れていた場所は床が凍結しており、滑りやすい状況であったことから、転倒したと推測される。	10901	2	1～9
2010	1	15 ～	屋内運動場放送室内に設置する電線の引き込み作業のため2階部分で作業を行っていた被災者が作業を終了し、1階へ降りる際、立入禁止となっている放送室上部へ移動した。昇降の際、既設の階段を使用せ	30301	1	1～9

		16	ず立入禁止区域に設置されたはしごより昇降しようとしたため、3.7m下のステージ上へ墜落し被災したものの。			
2009	7	11 ~ 12	被災者は、墓地造成のための砂利をハンドガイド式不整地運搬車を使用して運搬作業中、墓地へ行くための通路から不整地運搬車とともに約3m下の溝に墜落した。	30199	1	1~9
2009	8	10 ~ 11	コンクリートミキサー車を使用して生コン工場敷地内に散水するため、ミキサー車のタンクにホースで水を入れる作業中、タンクの水量を確認するためミキサー車後部に近づいたところ、コンクリート床が濡れていたため、足を滑らせて転倒した。	80209	2	1~9
2009	9	16 ~ 17	大学の研究事業の一環として、小水力発電装置を設置し、小水力発電装置の導水管を点検中、点検通路から5m下の土川の川底へ転落した。	30302	1	10~ 29
2009	8	17 ~ 18	焼却設備の煙道保温材に錆による腐食が認められたため、鋼板を巻きつける補修作業中、東側半面のボルトの取付が終了し、西側半面のボルト取付のため、東側歩道を移動し、煙道北側部分より西側の点検台に移動しようとしたところ、誤って足を滑らし、水タンク上部（高さ約7.65m）から地上に墜落した。	150102	1	10~ 29
2008	4	20 ~ 21	被災者は、ホテル内レストランにおける調理業務の終了後、帰宅するために厨房から出てホテル建物の外廊下を歩行していた際、吹き込んだ雨で濡れていたコンクリートの通路上で転倒し、死亡した。	140201	2	10~ 29
2008	1	10 ~ 11	崖の上に設置されてある露天風呂の湯量調整を被災者と同僚で声を掛け合いながら行っていた。作業途中で被災者からの返答がないので不審に思い、床下等を搜索したところ、約60m下の岩場に被災者が倒れているのが発見された。	140101	1	50~ 99
2007	11	13 ~ 14	昼食後一旦事務所に戻った後、事務所前道路に駐車してあった社用車（軽自動車）に乗り込もうとしたところ、転倒し、倒れているところを発見された。	40102	2	30~ 49

2007	2	13 ～ 14	災害復旧工事で崩壊した地山斜面にグラウトアンカー工を施工するための地質調査に使うボーリング機械（重量約100kg）を被災者が小型ドラグ・ショベルでつって作業構台まで運んだ。その直後、被災者は小型ドラグ・ショベルの運転席直下の斜面を林道面まで約11m墜落した。墜落箇所の作業道の幅は約3m、斜面の勾配は約50度であった。	30199	1	1～9
2007	11	9 ～ 10	脱硫設備のコンベヤーのプーリーの取り外し作業を終えた後、当該作業中に使用していたコンベヤー横に設置されている通路で通路の鉄板が腐食していると思われる箇所があったため、被災作業者と同僚1名で腐食箇所に歩み板を敷き終え、地上に降りようと当該通路を歩いていたところ、当該通路の別の箇所の鉄板が腐食していたため、その鉄板を踏み抜き、地上約30mの高さから墜落した。	10804	9	10～ 29
2007	3	14 ～ 15	天井クレーンによる鋼板水切作業中、被災者はクレーン運転士に用事があったため、自らクレーン操作室まで上がった後、操作室横の通路（高さ13.5m）に佇んでいた。当該通路は運転士の操作室への出入用に設けられた専用通路で、クレーンが移動すると通路の操作席側は墜落防止措置の全くない状態となり、バランスを崩した被災者は通路から墜落した。	50202	1	100 ～ 299
2007	11	7 ～ 8	販売所長が店の入口前で自転車と共に倒れている被災者を発見した。被災者は配達を終えて一旦帰宅、誤配の確認のため再度出勤しようとし、店の入口で転倒した。	80205	2	1～9
2007	9	14 ～ 15	治山工事現場において、谷止工の型枠組立作業中に、鉄筋7、8本（長さ約2m、太さ13mm、重さ約15kg）を肩に担いで谷止め工右岸下流側の法面を谷止め工上部側へ歩いて移動中、バランスを崩して約3mの高さから谷止め工下部に墜落した。	30108	1	10～ 29
2007	11	17 ～	被災者は当日の作業を終え、他の現場に配置された同僚を工事現場構内に駐車したワゴン車で待っていた。被災者は、ワゴン車内にいる同僚に「トイレに行く」と声をかけ外へ出た。その後、約3.8m下	30199	1	1～9

		18	のスロープ状の敷地内道路に転落しているのが発見された。			
2007	2	11 ～ 12	豆腐製造工程において、豆乳室の大豆が搬送されるマジックロダー（ホッパー）の清掃を脚立上で行った後、脚立から降りて大豆定量機と生呉（大豆をすり潰したもの）タンクの間を移動中転倒した。	10109	2	100 ～ 299
2007	6	11 ～ 12	携帯電話基地局の施設内での除草作業中、被災者が持ち場を突然離れたため、作業を指揮していた現場責任者が現場内を探したところ、現場敷地の隅のアスファルトの上で被災者が横になっていた。病院に搬送されたが死亡した。	150109	2	1～9
2007	8	19 ～ 20	被災者は船に熱延コイルを積み込むため、積み込みをする第2ハッチに移動していた。通路として使った第1ハッチ内に照明がまったくなく、暗闇の中はしごを降りた際に通路の床を踏み外し、船倉の最下部に転落した。	50202	1	100 ～ 299
2007	2	13 ～ 14	工場内の天井クレーン（5 t）が故障し全ての操作ができなくなったため、被災者1人が、ガータの歩道上または走行レール桁上で点検を行っていたところ、約7 m下の鉄板敷きの床上に墜落した。	11209	1	1～9
2007	10	19 ～ 20	2名の作業者が、その日の作業を終了し、搬入口から駐車場に向って徒歩で屋外通路を移動していた。その屋外通路は、手摺が無く、かつ照明の無い真っ暗闇の通路であった。2名が誤って約6 m下の河床に墜落し、負傷した。このことを聞いた被災者が、救助しようと屋外通路を歩いていたところ、踏み外して約6 m下の河床に墜落した。	30309	1	1000 ～ 9999
2007	10	9 ～ 10	被災者は事業場内で歩行中に転倒した。帰宅後に症状が悪化し、死亡した。	10109	2	50～ 99
2006	12	16 ～ 17	配達先で木材の束をトラックの荷台から降ろすために、配達先に設置されている天井クレーンを使用して作業していたところ、床コンクリート上に倒れているのを発見された。	80109	2	10～ 29
		20				

2006	11	～ 21	被災者は工場敷地内土手上で転倒し、約2m下のコンクリートに滑落した。	40301	1	10～ 29
2006	8	5 ～ 6	被災者は新聞および情報誌を配達中、一般住宅敷地内において転倒した際にアスファルトの路面に強打した。被災者は転倒後、2件の住宅に新聞等を配達したが、2件目の住宅において家主に救急車を要請し、医療機関に搬送されたが、死亡した。	80205	2	30～ 49
2006	11	6 ～ 7	早出出社した同僚労働者が、普段であれば出社している被災者の姿が見えないため不審に思い付近を捜したところ、事業場敷地内の駐車場から約10m下の隣地倉庫裏に墜落している被災者を発見した。	170201	1	10～ 29
2006	8	18 ～ 19	寮の委託管理業務を住み込みで行っている被災者は、管理業務の一部である建物内の巡回を行っている途中、1階の廊下で転倒し、体を強く打った。被災後、被災者は自力で管理室に戻ったが、翌日の朝、自宅リビングで倒れている被災者を家族が発見し、病院へ搬送されたが死亡した。	170209	2	1～9
2006	5	21 ～ 22	劇場の2階の通路（高さ6.3メートル、有効幅0.92メートル）にて、照明の調整作業中、1階観客席に墜落した。	100109	1	1～9
2006	8	8 ～ 9	中学校校舎の屋根葺き替え作業において、被災者は隣接する建物から作業場所に掛け渡した作業通路を使用して、屋根材である木毛板を運搬していたところ、バランスを崩して軒天井を突き破り、7.7メートル下の地面に墜落した。	30201	1	1～9
2006	8	9 ～ 10	鉄骨造倉庫建築工事において、鉄骨材を屋外から鉄骨組立中の屋内へ移動式クレーンにて搬入中、高さ約8mの梁の上で吊り荷の誘導作業を行っていたところ、墜落した。	30201	1	1～9
2006	5	0 ～	タンカー内のポンプルームと呼ばれる箇所で、被災者が倒れているのが発見された。ポンプルームは約21メートルの深さがあり、被災者はポンプルーム内の最も高い箇所に設置された通路から、12メー	11501	1	1000 ～

		1	ル65センチメートル下の箇所に設けられたタービンフラットと呼ばれる張り出し床の上に倒れていた。			9999
2006	4	23 ～ 24	災害発生場所において巡回警備中、倉庫の荷物積卸しホームより転落した。	170201	1	50～ 99
2006	1	18 ～ 19	客先において、ネットワーク工事完了後、通信機器の確認及び提案パソコンのカタログを入手するため、家電量販店に立ち寄っていたところ、通路にて転倒した。	80109	2	50～ 99
2006	4	12 ～ 13	使用済みサウナマットの入ったキャスター付ガゴを洗濯場へ運搬途中、エントランス横のスロープ頂上部から約2.15m下の道路に転落した。	130301	1	10～ 29
2005	5	11 ～ 12	造船所構内で艀装船に横付けした作業用台船に架け渡した通路上を渡っていたところ、5m下の海に墜落し、溺れた。	11501	1	1～9
2005	4	23 ～ 24	コークス装入コンベヤーの定時点検において、同コンベヤー脇の点検歩道を移動していたところ、鋼製の歩道床を踏み抜き、40m下の熱風管架台の上に墜落した。	11001	1	1000 ～ 9999
2005	10	15 ～ 16	休憩時間中、工場の間を走る水路上に設けられた通路から3m下の水路（水深12cm）に墜落した。	10801	1	30～ 49
2005	2	11 ～ 12	事務所から作業箇所に向かう途中で転倒した。	80409	2	100 ～ 299
2005	7	16 ～ 17	木造建造物解体後の廃材搬出作業中、転倒した。	30202	2	1～9
		18				30～

2003	4	13 ～ 14	緊急地すべり対策として施工した水抜き立坑（立坑掘削後に放射状にボーリングを行い地層間の地下水を抜くもの）の施工終了後、流量等の測定等のために20mの立坑に入り、測定を終えてはしご道を登っているときに転落した。	30199	1	10～ 29
2003	3	4 ～ 5	自転車で新聞配達のアルバイト中、用水路に架かった橋（幅615cm、高さ70から90cm）から墜落した。	80205	17	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	墓地の石垣築造に伴う残土の搬出作業で、ハンドガイド式運搬機に残土を積み、後進で途中まで走行しそこで方向転換を行ったときに、足を側溝に踏み外して転倒し運転していた運搬機に轢かれた。	30199	2	10～ 29
2002	6	8 ～ 9	雨が降っていたので会社事務所で待機中に、責任者から近くのコンビニエンスストアで缶コーヒーを買ってくるよう指示され、買いに行ったときにストアのトイレで転倒して頭部を激突した。	30110	2	1～9
2002	11	10 ～ 11	駐車場管理人が駐車場入り口付近で血を流して倒れているのを通行人が発見し、病院に移送したが意識は回復せず、外傷性くも膜下出血、急性硬膜下出血、脳挫傷、頭皮裂創で死亡した。	170209	2	50～ 99
2002	7	13 ～ 14	水圧バーカーによる木材の皮むき作業で、昼食後に作業を開始したが機械が停止し10分ほど経っても機械が動き出さないのと同僚が見に行ったら、機械の操作場所から離れたところでコンクリート敷きの地面に仰向で倒れていた。	10409	2	1～9
2002	5	14 ～ 15	埠頭に停泊しているタグボートから注文を受けた船員用具（船内で使用する日用雑貨）の納品に向かい、埠頭で海中に墜落し翌日水死体で発見された。	80201	10	1～9
2002	2	10 ～ 11	楽器店の看板取付工事で、現場の交通誘導員が現場2階にあるトイレに行き、用済み後にトイレから廊下に出る際に転倒し頭と腰を強打した。	170201	2	10～ 29
		15	橋桁工事用のつり足場に設けられたネット上にボルトが落ちていない			300

2002	4	～ 16	かを約41m下の地上から双眼鏡を覗きながらチェックし、橋上にいる現場作業員に携帯電話で連絡していた者から連絡がないので探したところ、海に沈んでいた。	30209	10	～ 499
2002	3	13 ～ 14	昼休憩が終わって碎石プラントを再始動させる前に、ベルトコンベアー等のプラントの状況を点検するためプラントの架設通路を歩行中、通路の手すりが設けられていなかった箇所から約3.6m下の砂利地面上に墜落した。	20209	1	10～ 29
2001	12	10 ～ 11	高さ約11m、直径約5mの立坑(電力用鉄塔の基礎部分)内で地ならし作業が終了し、坑外に出るため土止め用ライナープレートに取付けた鋼製の昇降梯子を昇っているときに墜落した。	30301	1	30～ 49
2001	12	～ 15	橋脚上での橋桁取付作業中に、工具を取りに栈橋にある倉庫まで行ってその帰りに仮設通路から橋脚上に渡された橋桁へ移ろうとしたとき、足を踏み外して約4m下の川に墜落し、溺れた。	30105	10	10～ 29
2001	7	11 ～ 12	擁壁の上部斜面で草刈作業中に気分が悪くなり手すりがない通路(幅36cm、高さ約2.2m)に腰掛けて休憩していたところ、タオルが地上に落ち地上にいた作業員がタオルを拾って近くに投げ返してくれたので拾うため立ち上がったときに、通路から地上にスローモーションのように頭から墜落した。	30199	1	10～ 29
2001	7	19 ～ 20	港に係留中の船舶の修理作業で、甲板上で休憩していたときに夕食を買ってきた事業主がクレーンハウジング上に上がってくるように声を掛けたので、クレーンハウジングに上がる途中3.05m下のクレーン取付台に墜落した。	11501	1	1～9
2001	6	11 ～ 12	キャリアダンプ(ハンドガイド式運搬車)でコンクリートブロックを設置箇所に運搬し、再び積込場所に引返す途中の作業通路上でキャリアダンプを180度方向転換させようとしたときに、作業通路の端から約25m下のダム湖に転落し溺死した。	30199	10	1～9
		9	排水路付替工事現場において、バックホーを移動させるため路肩に敷き込んである鉄板を斜めに横切る形でバックしたところ、キャタピ			10～

2001	5	～ 10	ラーが敷鉄板の端を噛んだため敷鉄板が跳ね上り、鉄板上にいた者が地面の上に落下した。	30110	3	29
2001	1	23 ～ 24	ガソリンスタンドの深夜アルバイトが終了し、スタンドの奥にある洗濯機置場に向かっているときに足を滑らせ転倒し頭部を強打した。	80204	2	30～ 49
2001	1	11 ～ 12	病院建屋(鉄筋コンクリート造、4階建)の屋上に設置されている空調屋外機の修理作業のため屋上に上っていて、屋上の端から墜落した。	11702	1	1～9
2000	12	～ 14	道路改良工事において、鉄筋挿入工(アンカー工)の施工を開始するため油圧ユニットの始動状況を確認するため移動中に、足場通路より4. 45m下に墜落した。	30106	1	10～ 29
2000	5	～ 10	産業廃棄物処分場において、ドラッグショベルで地下焼却炉ピット内の焼却灰を除却する作業をされていていったん運転席を降り再度運転席へ戻る途中、ピットの可動式蓋のレール(高さ34cm)を乗り越えようとして左足がレールに引っかかりバランスを崩して転倒し、顔面を強打した。	150102	2	10～ 29
2000	11	～ 19	工事現場で後片付け作業中に者の姿が見えなくなったので捜していたところ、駐車場から作業場所へつながる通路横の側溝に倒れていた。	30201	1	10～ 29
2000	9	～ 22	駐車場ビルの巡回中、トランシーバーでの定常連絡が屋上駐車場から最後に途絶えたので他の警備員が確認に行ったところ、屋上駐車場で意識を失って倒れているのを発見した。(頭蓋骨骨折による脳挫傷)	170201	2	10～ 29
2000	6	～ 11	神社新築工事において、屋根作業を中断して資材の買い出しに行こうとして脚立を降りたときに口から血を流しているのが発見された。(外傷性クモ膜下出血)	30202	2	1～9
2000	2	～	新聞代集金のため夜間に自宅を徒歩で出かけて行方不明となったため、翌日に近所の人と集金した家の周辺を捜索したところ、市道脇の	80205	1	50～

		20	側溝で死亡しているのを発見した。			99
2000	3	13 ～ 14	民家裏の治山工事現場において、不整地運搬車でブロック設置箇所からブロックを取りに民家敷地内をバックで走行中に民家の角に接触し、反対側の既存のコンクリートブロック法面を転落(約4m)した。	30108	1	1～9
2000	9	20 ～ 21	荷受け先でトラックに積込みが終り荷台から2段重ねのパレットの上に飛び降りた(約1m)ときに、着地でバランスを崩して仰向けに転倒し、頭部を強打した。	40301	3	1～9
2000	3	17 ～ 18	現場での作業を終え日報を書くため駐車場から事務所向かって歩行中に、転倒して頭部を強打した。	30202	2	10～ 29
1999	9	19 ～ 20	現場事務所として借りているマンション3階の共有通路から1. 1mの高さの柵を越えて真下の地面に転落した。	30105	1	1～9
1999	9	10 ～ 11	高炉修復工事の準備作業として、屋外作業通路に照明設備の取り付け作業を行っていて鉄製通路の床を踏みぬき、約9m下の地上に墜落した。	30309	1	30～ 49
1999	8	10 ～ 11	一輪車に生コンクリート約30キログラムを積んで勾配約20～24度のコンクリート坂道を後向に運んでいたときに、足を滑らし道の端より約4. 1メートル下に一輪車とともに転落した。	30199	1	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	ビル清掃員が、出勤してきた同ビルテナントの社員に12階エレベーター前廊下で右側頭部を床に付けて倒れているところを発見された。	150101	2	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	碎石プラント内で碎石クラッシャーの清掃作業を行っていて、作業箇所を移動したときに通路より7.4m下に墜落し被災した。	20201	1	10～ 29
1999	3	3	倉庫にある麦の乾燥設備取り外し工事現場において、作業が終了して後片付けを行っていたときに体勢を崩して転倒し、倉庫の床に置いて	30309	2	1～9

		4	あった角パイプに後頭部を打ちつけた。			
1999	3	13 ～ 14	圧延機ローラーを取り付ける台の鋳型造型作業で、天井クレーンを操作していた者が定盤から高さ3.3mのピット下に墜落した。	11001	1	300 ～

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html